

本紙記事

- 1面＝国体を成功させよう 郷土のしおり
- 2面＝戦時加算が認められる、国民年金10月は納期限、賑々しく敬老会
- 3面＝両陛下11日に大館へ一週間の印象が80年の印象、旗の立て方
- 4面＝国体日程と会場案内
- 5面＝広報豆知識、優良納税者らを表彰、県民手帳予約募集
- 6面＝名実ともに観光基地 特急列車の停車駅も、試乗会に参加して

広報 おおだて

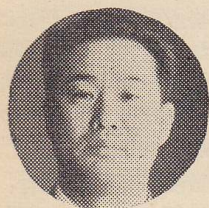
No. 69

(毎月 1回発行)

発行 昭和36年9月30日発行
 発行所 秋田県大館市役所
 編集兼 竹内 福哉
 発行人
 印刷所 北鹿新聞社

- 1～7日、新聞週間、労働衛生週間、簡易保険週間、牛乳週間
- 4～11日、親さがし運動
- 8～13日、第16回国民大育大会秋季大会
- 10日目の愛護デー
- 14日鉄道記念日
- 24日国際連合の日
- 27日から読書週間
- 10月中、やみ酒をなくする運動、里親職親を求め運動、国民年金普及月間
- 中旬交通安全運動

10月の広報ごよみ



みんなて国体を成功させよう

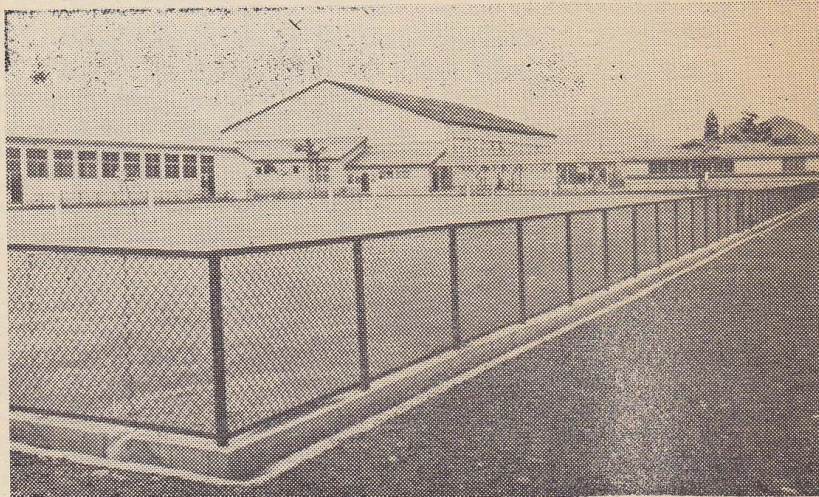
市長 佐藤 敬治

第16回国体秋季大会が、いよいよ、この8日から秋田県で開幕され、わが大館でも、鳳鳴、桂の両会場においてバレー、バスケット、テニスの3種目について競技の覇がきそわれます。

この大会には、天皇、皇后両陛下がおそろいでお出になり、本市鳳鳴会場にも11日に御臨席になられます。

両陛下おそろいのお出は、戦前戦後を通じてはじめてであり、市民のみなさんとともに、心からなる奉迎をいたしたいと存じます。

また、この大会には南は沖縄から北は北海道まで、全国各地から2,000人も選手や役員、報道関係者がお出になりますので、郷土を紹介する、またとない機会であり、市民総参加の、この大会の成否が、そのまま、今後長く大館を印象づけることになるわけであり、大館のもつよさを十分に発揮して、遠来の選手役員の期待に応えたいものであります。



なにかと忙しい季節ではありますが80年に一回というこの大会を、是非ご覧になって、心からの声援をおくってくださるよう切望してやみません。

(写真は大会を待つ鳳鳴会場、手前はテニスコート、その上中央にあるのがバスケット競技の体育館、その横にバレーコートがある)

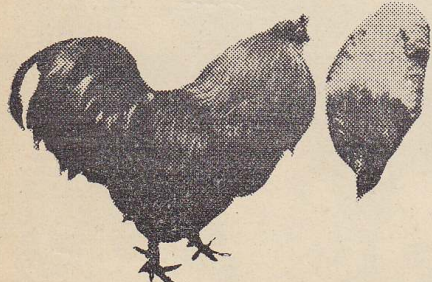
郷土のしおり

比内鶏 金八鶏

大館市の天然記念物 …… ③

比内鶏 (ひないどり)

この鶏は昭和17年6月「第一類天然記念物比内鶏」として文部省の指定をうけた。比内鶏は比内地方の存来種で、純然



たる日本地鶏。その後に作出された「声良鶏」の先祖でもある。性質は機敏で、原始的放し飼いされたものは、殊にその特徴を表し、相当長い宙間を飛んだり、木の枝から枝へ飛び廻ったり、夜間立木の高枝を止り木に宿る習性を持ち、人間

に馴化しない、いわゆる野性味をもっている。体重は2才の雄で2.7キロ、雌は1.9キログラム位だから、現在の実用鶏、卵肉兼用種と比べて大きくはない。

眼光やや鋭く栗茶色、鶏冠は「3枚冠」で、耳朶は赤色、嘴は黒褐色、脚は黄色が主で柳葉色のものもある。鞍羽、尾羽ともに比較的豊富で、謡羽はやや広く長く、光輝ある赤褐色の羽毛とともにその姿態が誠に優美で、鶏中稀に見るものである。

卵は小型(48グラム内外)、卵殻は桜色または薄紅色で、産卵数は少ないが、肉の美味なことは鶏中最高である。

骨の比較的細いのと、香氣、脂肪、肉質等、山鳥に類似し、比内鶏といえば美味であることが代名詞になっている。

大正14年10月、御召用として、今上陛下に献納し、昭和10年には秩父宮殿下、その後は高松宮、三笠宮の両殿下に夫々御召用として上納している。10月頃、新米の出る頃から比内鶏の若鶏に脂肪がのりはじめ、比内鶏による名物「キリタンポ」の賞味絶頂に達する季節である。

金八鶏 (きんぱどり)

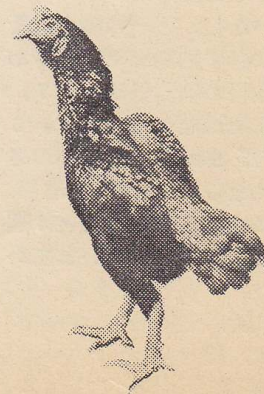
昭和34年1月、動物として県文化財の

指定をうけたのは、この鶏が初めてである。金八鶏の特徴は「蝦尾」と「羽毛の丸葉で、愛玩鶏の至宝といわれ、実見してその価値を知るものである。

身長、体重は成鶏で僅か39匁1.7匁であるから、植物に例えると盆栽の優れたものが珍重されるように、小動物のうち家禽として珍重される。容姿端然、礼節を守るといった感じで、日本趣味を表現しているのがこの金八鶏である。

「金八」という名称は、天保年間、下町に住む魚屋金八が作出したところからその名がつけられたといわれている。

現在、わずか十数羽より少ない天然記念物である。



(本紙掲載声良鶏、比内鶏、金八鶏は山田定治さんの飼育鶏です)